

5499 ^{げーぶる} 迎舌中山道ママチャリ旅：大井宿・西行法師の碑 061

.....

こうした画像記録のひと時も、旅のリズムや学び、心への刺激。

ここでは触れないが、寒漉き純 ^す楮 ^{こうぞ}和紙を使って創作している、夢絵作家としては、浮世絵は、いろいろな観点から参考になり、勉強していた。

浮世絵—錦絵—夢絵、海外で、日本好きの外国人、ユーモアで、北斎—写楽—久楽と、酔狂に。

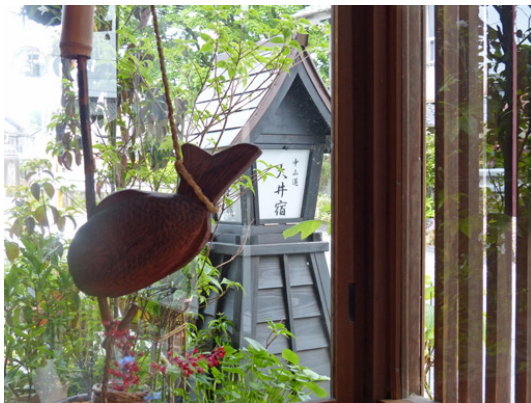
色彩や構図、ゴッホも浮世絵から、いろいろヒントを得たと紹介されている。

繊細な感性も必要だが、運・鈍・根、旅や人生、アートにも、大雑把な感性が必要かも？

そうした状況下、**ひらめき**や、気付きによって、何かを誕生させることになるのかも知れない。

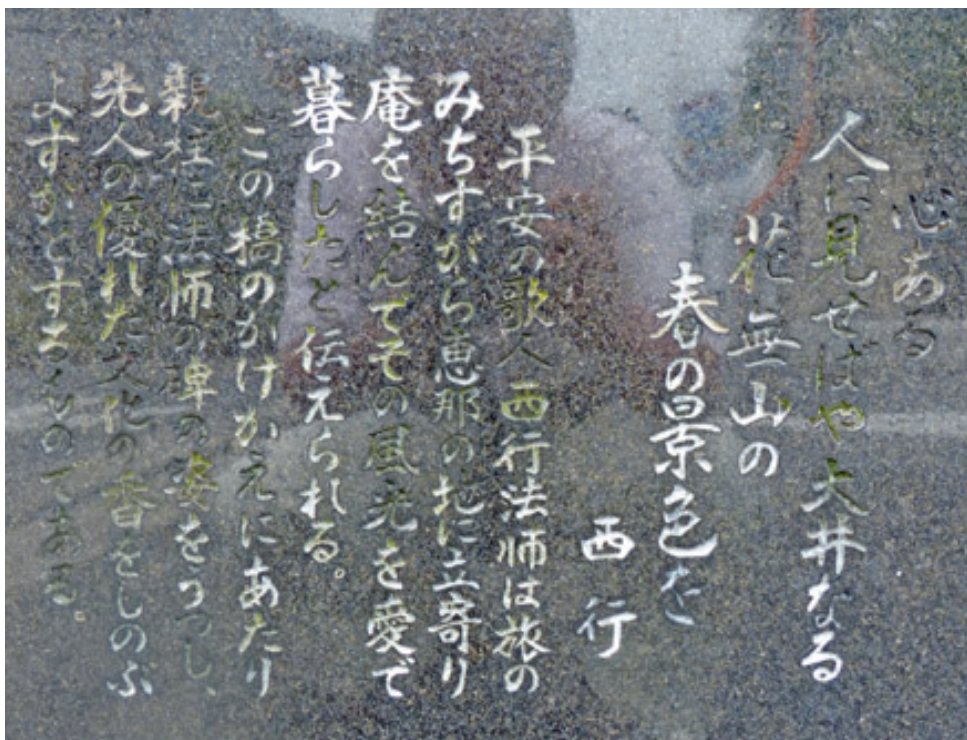
先入観を出来るだけ無くし、素直に見聞。思わぬ収穫がある。

大井橋のたもとの喫茶店で一休み。メモの整理と、この後の作戦タイムを楽しんだ。



～～山はみどり 野に花 人にはこころ～～

心ある人に 見せばや 大井なる 花無山の、春の景色を 西行



西行法師は、旅のみちすがら、恵那の地に立ち寄り、^{いおり}庵を結んでその風光を愛で、暮らしたと伝えられる。

この橋のかけかえにあたり、親柱に、法師の碑の姿をうつし、先人の優れた文化の香をしのぶ、よすがとするものである、と書いてある。

久楽の旅のスタイルとして、西行法師や松尾芭蕉、宮本武蔵、等々、先人への憧れと、どんな環境を選択されたのか、日頃から、大いに興味を持っていたので、こうした、ママチャリひとり旅を、敢行したのかもしれない。それだけに、いい時間を持ったのは、言うまでもない。